

7. 水源地域動態

7.1 評価の進め方

7.1.1 評価方針

水源地域動態の評価は、大きく2つの観点から行った。一つは、地域との関わりという点で、ダム建設から管理開始以降、現在までのダム事業を整理するとともに、地域情勢の変遷を整理した。この結果に基づき、地域においてダムがどのような役割を果たしてきたか、今後の位置づけはどのように考えていくべきか等について評価した。

もう一つの観点として、ダム周辺整備事業とダム及びダム周辺の利用状況から評価を行った。ダム周辺に整備された施設等が十分に利用されているものとなっているか、又は逆に利用状況から見た施設は十分なものとなっているか等の評価を行った。

最後にこれらをまとめ、ダム及びダム周辺の社会的な評価の総括を行い、課題等について検討した。

7.1.2 評価手順

評価方針のとおり大きく2つの観点により評価を行った。

作業のフローは、図7.1-1に示すとおりである。

(1) 水源地域の概況整理

水源地域の地勢や人口・産業等の概要、交通条件や観光施設等のダムの立地特性等の視点から水源地域の概況を把握した。

(2) ダム事業と地域社会の変遷

ダム建設が地域社会に与えたインパクト、周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等についてダム事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理し、ダム事業と地域社会の係わりを把握した。

また、猿谷ダム周辺施設の利用状況・地域交流・各種イベントの内容・参加人数等を整理するとともに、これまでダムに訪れた人や地元住民から寄せられた意見・要望等から猿谷ダムに対する意識を把握した。これらのとりまとめにより、ダムを含めた水源地域としての地域特性を把握した。

(3) ダムと地域の関わりに関する評価

ダムと地域との関わりとして、(2)をもとに、地域におけるダムの位置づけについて考察を行った。さらにダム管理者と地域の関わりとして、至近5ヶ年を含むこれまでのダム管理者と地域の交流事項等について整理し、管理者の活動等について評価した。

(4) ダム周辺の状況

ダムの周辺環境整備計画を整理するとともに、現況の整備状況等について整理した。

また、施設入り込み数、イベント開催状況等から周辺の利用状況を整理し、利用に関する評価を行った。

なお、原則は、「水源地域対策特別措置法」で整備した施設等は評価対象としないが、ダム事業と一体となって整備した施設等は含めた。

(5) 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果より、ダム周辺施設の年間利用者数、利用形態等についても整理した。

また、アンケート調査結果から、利用者がどのような感想をもっているかについても整理し、利用者の視点からのダム周辺施設（環境整備）の評価を行った。

(6) まとめ

以上のとりまとめ結果から、地域とダムの関わり、ダムの利用状況に関する評価結果をまとめ、ダムの特徴、課題等について整理した。また、負の評価結果となった事項があれば、これらについて要因を整理し、極力改善策等の提案についてとりまとめた。

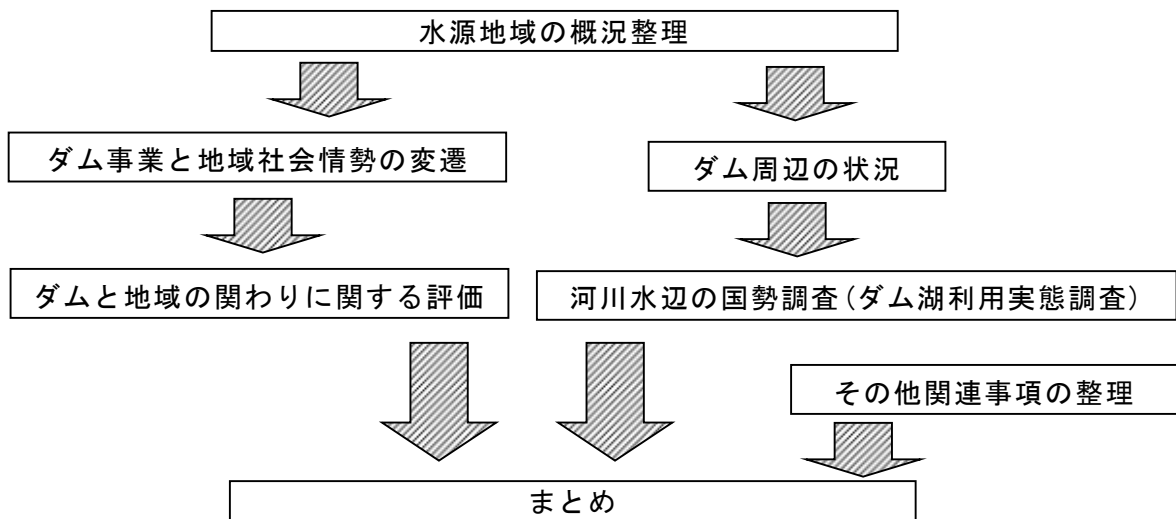


図 7.1-1 評価手順

7.2 水源地域の概況

7.2.1 水源地域の概要

(1) 水源地域の位置

九頭竜川流域は、福井県嶺北地方の7市4町(大野市と旧和泉村が合併、福井市と旧清水町、旧美山町が合併、旧芦原町と旧金津町が合併しあわら市、旧坂井町と旧春江町、旧丸岡町、旧三国町が合併し坂井市、旧朝日町と旧織田町、旧宮崎村が合併し越前町、旧今立町と旧武生市が合併し越前市、旧南条町と旧今庄町、旧河野村が合併し南越前町、旧上志比村と旧永平寺町、旧松岡町が合併し永平寺町、勝山市、鯖江市、池田町)を中心に、岐阜県郡上市石徹白地区(旧白鳥町)を含め2県の8市4町にまたがっている。

九頭竜川の流域では、古代から人々の生活の跡が、いろいろな地区で見られる。流域での生活の様子は、九頭竜川本川、日野川、足羽川の三大河川がもたらす恵み多い自然の中で、大和や京都の影響を受けながら風土に根ざした文化を育み、歴史を刻んできた姿を数多い遺跡や古墳、文化財などから窺い知ることができる。

現在は、福井平野を中心に武生盆地や大野盆地などで市街地の拡大伸展が見られる。人口は、福井平野を中心とした西側の市町で増加傾向にあり、東側の山間部市町では減少傾向が見られる。西側市町の核は、商業・サービス業を中心とする福井市、工業や商業を中心とする鯖江市と越前市である。また、農業は福井平野を中心として展開されており、東側山間部市町村では若干の工業の展開が見られるものの、林業の不振もあって過疎化が進みつつある。

大野市域の約80%を占める森林がもたらす「水」は、名水百選「御清水」^{おしよすず}に代表されるように、大野市の大きな魅力となっている。清らかで豊かな水は、農業をはじめ素晴らしい食文化を育んできた他、地場産業の繊維工業の振興にも大きな役割を果たしてきた。一方、市街地は戦国時代からの町割りが色濃く残り、城下町の風情を味わうことができる歴史と文化に満ちた空間となっている。今日まで脈々と受け継がれてきた幕末の大野藩に代表される進取の精神や、シンボルの亀山、越前大野城、寺町等は市民の誇りである。

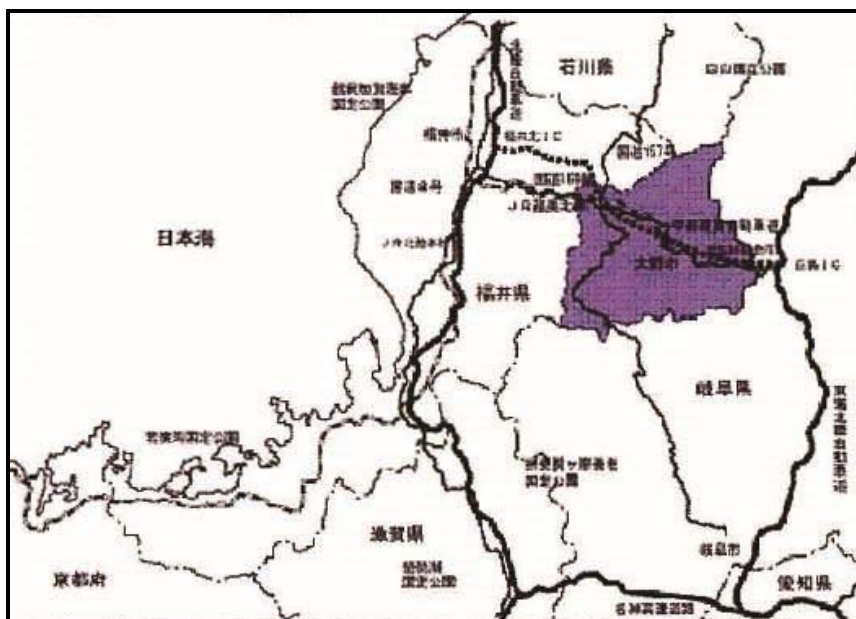


図 7.2-1 水源地域の太野市概略位置図

(2) ダムの立地条件

真名川ダムの水源地域は福井県大野市に位置している。平成 17 年 11 月 7 日に大野市と和泉村が合併し、新「大野市」が誕生した。同市の人口は 33,109 人（平成 27 年国勢調査）、面積は 872.43km²と福井県最大であり、その約 86.9%を森林が占めている。

【出典：大野市勢要覧 ver. 2014】

大野市は、福井県の東端に位置し、東と南は岐阜県、西は福井市と池田町、北は勝山市と石川県に接している(図 7.2-1 参照)。

真名川ダムへのアクセス道路で、南北に通る国道 157 号と、東西に通る国道 158 号は、北陸、中部経済圏の産業、文化の交流を図る幹線道路で地域の振興に欠かすことのできない道路である

大野市をほぼ東西に通る国道 158 号、真名川ダムへのアクセス道路で大野市東部を南北に通る国道 157 号は、福井県と岐阜県や石川県を結ぶ北陸、中部経済圏の産業、文化の交流を図る幹線道路で、地域の振興に欠かすことのできない道路である。

鉄道は JR 越美北線(九頭竜線)が国道 158 号にほぼ平行して走り、福井駅で JR 北陸本線と接続している。

また、現在建設中の中部縦貫自動車道(一部開通)は水源地域を縦断する計画となっており、完成すれば東海北陸自動車道で中京圏と、北陸自動車道で関西圏との時間距離が短縮される。福井県の東玄関口となる奥越前にとって地域活性化の強力な起爆剤になると期待されている。

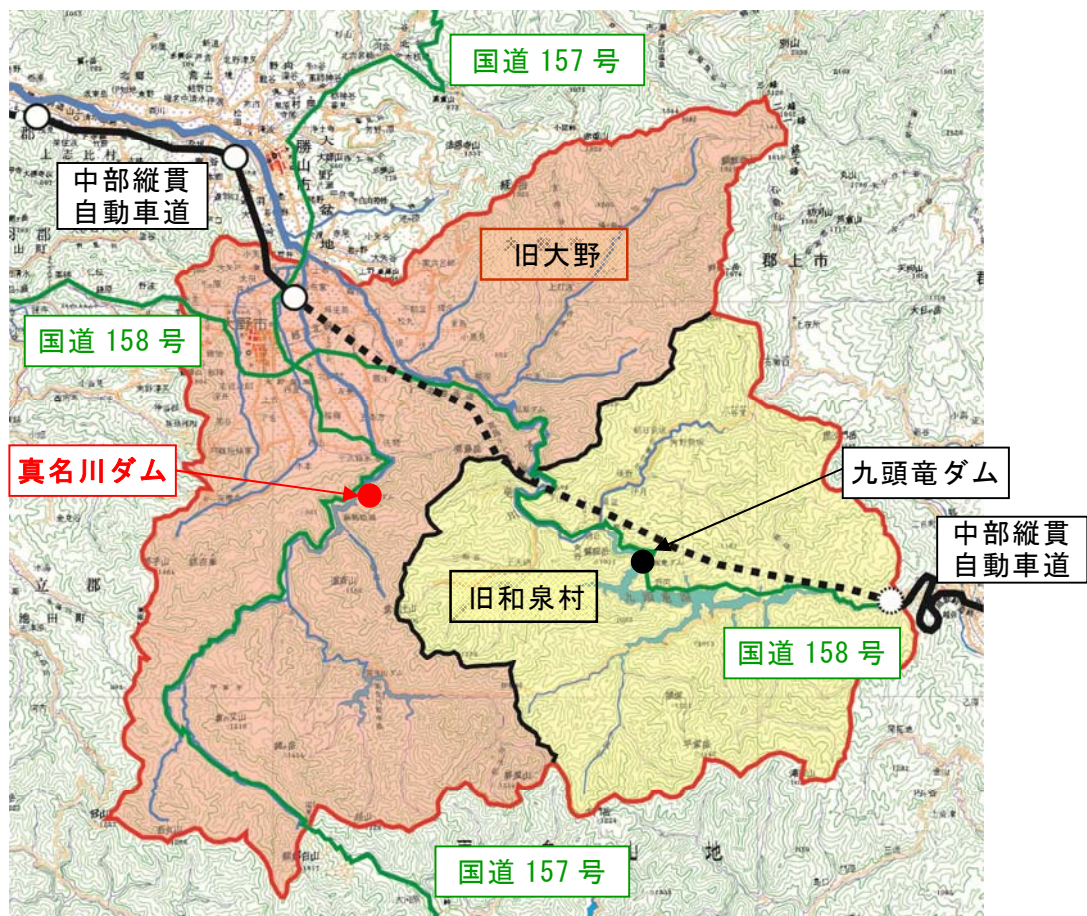


図 7.2-2 大野市域と真名川ダム周辺の概略道路図

注) 現在の大野市は、旧大野市と旧和泉村が合併している。



図 7.2-3 中部縦貫自動車道(大野市周辺)の概要

【出典：福井河川国道事務所 中部縦貫自動車道のパンフレットより 平成 29 年 10 月】

交通アクセス(大野まで)

●東京から

- JR/東海道新幹線・北陸特急
/北陸新幹線・特急サンダーバード
- 飛行機/羽田(成田)～小松～福井(バス)
- 自動車/東名・名神・北陸自動車道
- 高速バス/東京駅八重洲南口～福井

●大阪から

- JR/特急サンダーバードで
- 自動車/名神・北陸自動車道
- 高速バス/阪急三番街～福井

●名古屋から

- JR/北陸線特急で
- /東海道新幹線・北陸特急
- 自動車/名神・北陸自動車道
- /東海北陸自動車道
- 高速バス/名鉄バスセンター～福井

福井まで

- 約 3 時間 30 分
- 約 3 時間 20 分
- 約 2 時間
- 約 5 時間 30 分
- 約 8 時間 20 分

大野まで

- 約 2 時間
- 約 2 時間 40 分
- 約 3 時間 30 分
- 約 2 時間
- 約 1 時間 40 分
- 約 2 時間
- 約 2 時間 50 分
- 約 2 時間 50 分

- ・ JR 越美北線で
約 1 時間
- ・ 京福バス大野線で
約 1 時間

【出典：ふくい city ナビ】

<http://www.fukuicity-navi.com/index.php>

(3) 自然公園等

真名川ダム近傍の自然公園等の指定状況を下図に示す。

真名川ダム近傍は、県立奥越高原自然公園に指定されている。

奥越高原県立自然公園は、勝山市、大野市の2市にまたがり、白山山系の赤兎山、大長山、取立山、法恩寺山、大舟山などの1,500m前後の山々と「日本百名山」である荒島岳などを中心とする山岳公園である。

これらの山々を切り開くように入り込む九頭竜川とその支流の石徹白川、真名川などの溪谷・峡谷美、九頭竜湖や麻那姫湖などのダム湖とが調和のとれた自然環境を呈している。

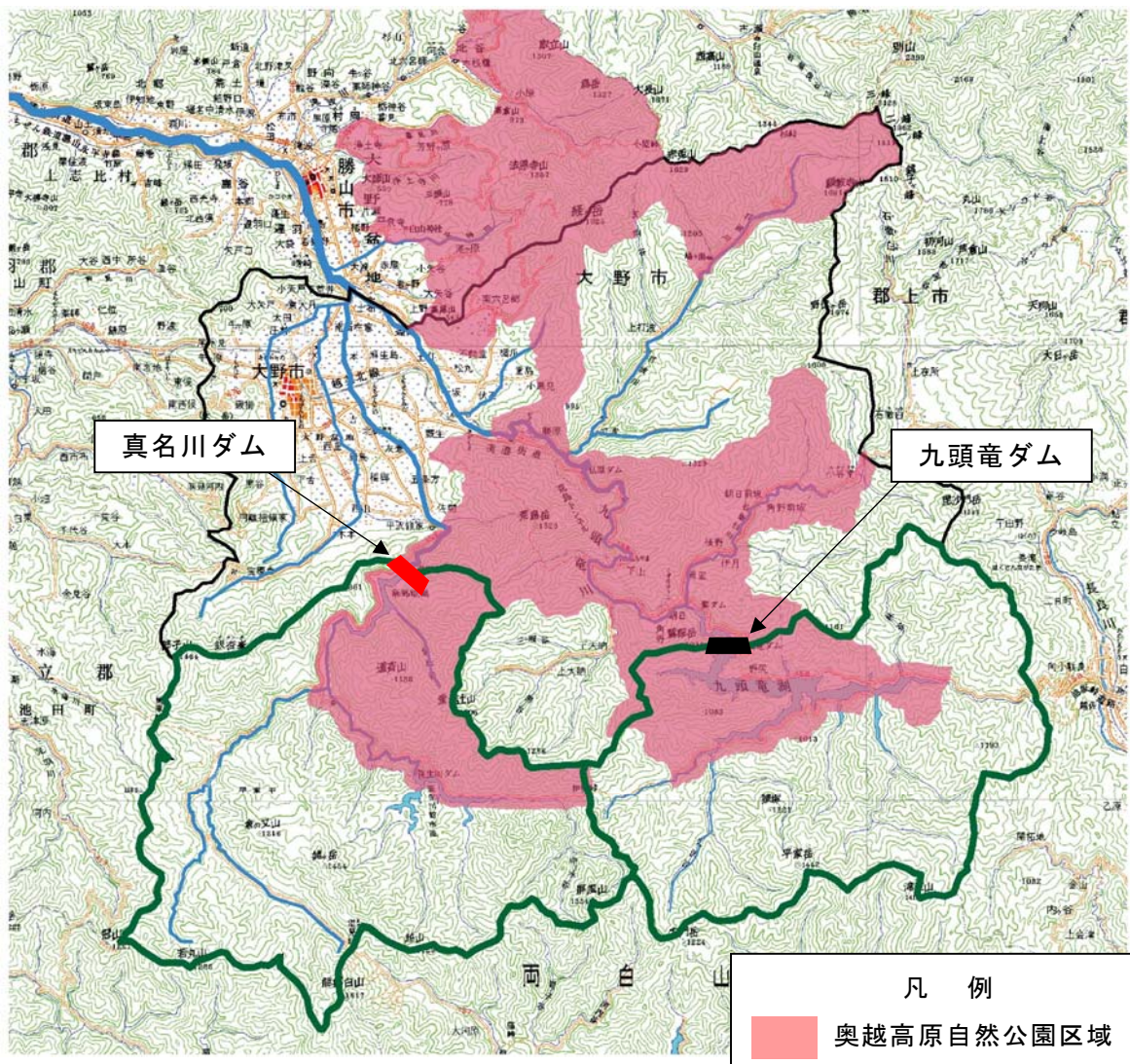


図 7.2-4 真名川ダム周辺の自然公園

【出典：福井県 HP】

7.3 ダム事業と地域社会情勢の変遷

(1) 水源地域の人口・世帯数の推移

真名川ダムの水源地域である大野市(旧大野市)の人口は減少傾向にある。

世帯数は、核家族化の影響等もあって平成17年まで増加していたが、それ以降は減少傾向にある。

表 7.3-1 大野市(旧大野市)の人口・世帯数の推移

旧大野市	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
人口(人)	44,873	42,241	41,918	41,901	41,926	40,991	40,245	38,880	37,174	34,750	32,638
5年間の増減率	—	-5.9%	-0.8%	0.0%	0.1%	-2.2%	-1.8%	-3.4%	-4.4%	-6.5%	-6.1%
世帯数(世帯)	9,975	10,090	10,306	10,476	10,485	10,463	10,567	10,867	10,977	10,621	10,481

【出典：国勢調査 昭和40年～平成27年】

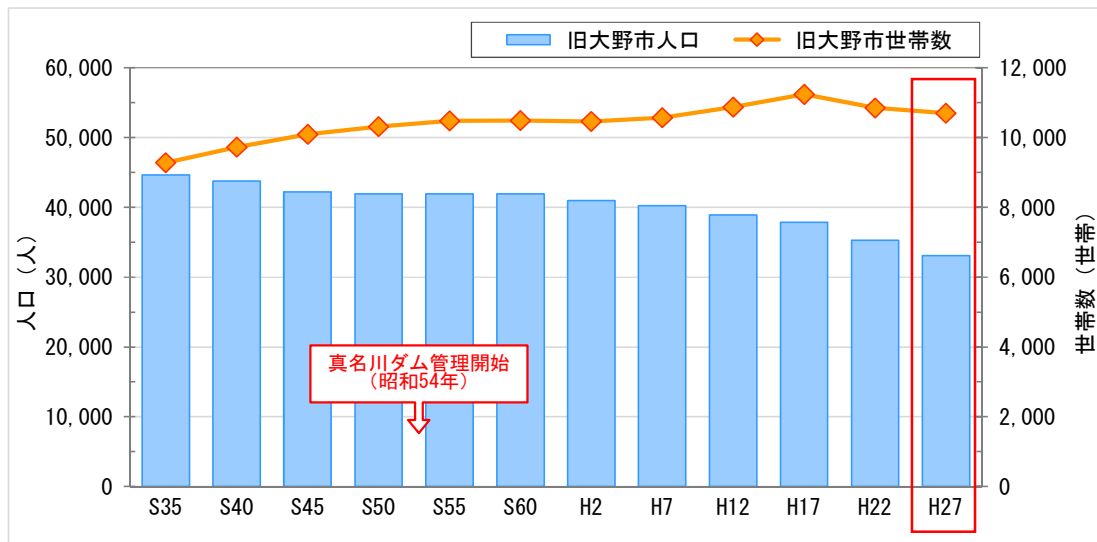


図 7.3-1 大野市(旧大野市域)の人口・世帯数 経年変化

【出典：国勢調査 昭和40年～平成27年】

(2) 産業別就業者人口

大野市(旧大野市域)における事業所数の経年変化を図 7.3-2、産業別就業者人口の経年変化を図 7.3-3 に示す。

大野市(旧大野市域)においては、事業所数は昭和 55~60 年頃までは増加していたが、その後は減少傾向にある。

産業別就業者数の割合の経年変化では、昭和 55(1980)年までは、就業者数は概ね横ばいであったが、その後は減少傾向にある。

産業別では、第一次産業就業者数は昭和 35(1960)年以降減少し続けている。

第二次産業の就業者数が昭和 50 年前後に増加しているが、これは真名川ダム建設工事の影響と考えられる。昭和 60 年まではほぼ横ばいであったが、平成 2 年以降は減少傾向にある。

昭和 55(1980)年以降は人口の推移と同様に就業者数も減少する傾向にある。過疎高齢化に伴う第一次産業就業者数の減少及び鉱業関連産業の衰退等で第二次産業就業者数が減少し、第三次産業の就業者割合が相対的に高くなり、平成 17(2005)年からは 5 割を超えている。

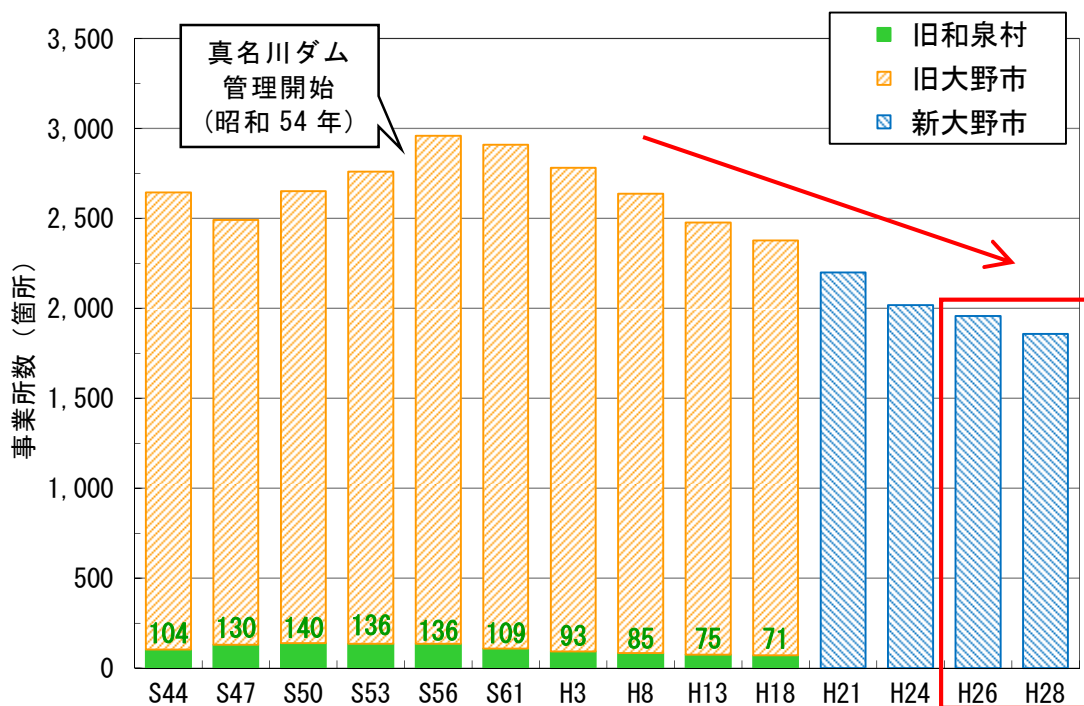


図 7.3-2 大野市(旧大野市・旧和泉村)の事業所数 経年変化

【出典：総務省・経済産業省「経済センサス(基礎調査結果・活動調査)」 昭和 44 年~平成 28 年】

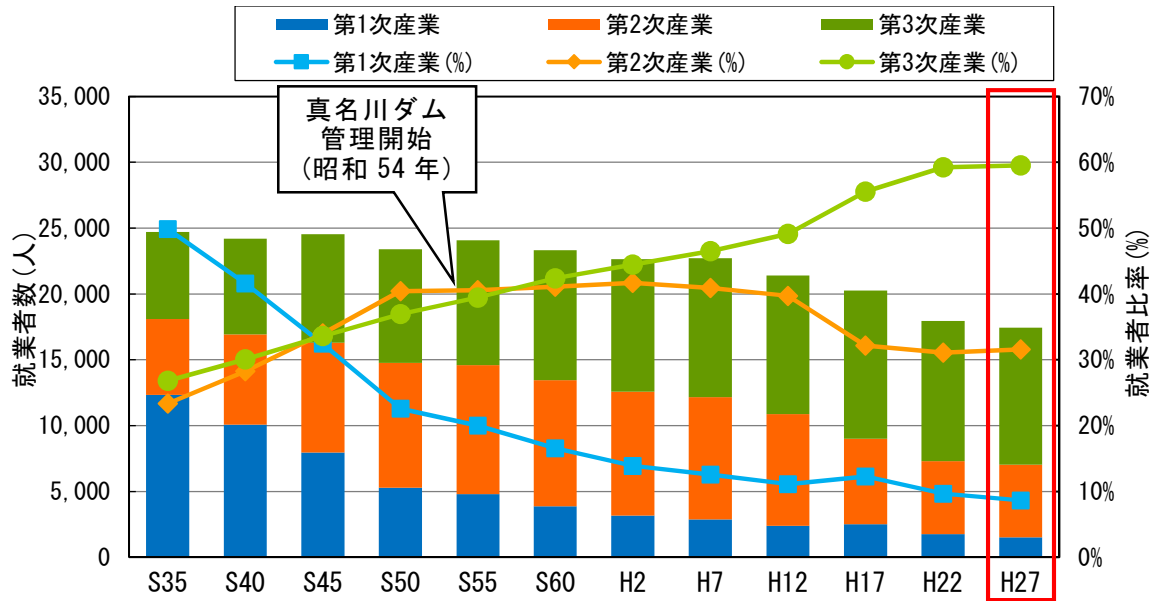


図 7.3-3 旧大野市の就業者数及び就業者比率 経年変化

【出典：福井県累年統計表】

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/toukei-jouhou/ruinen.html>

(3) 観光イベント等の開催

真名川ダムの水源地域である大野市(旧大野市)では、次のような観光イベントが開催されている。

表 7.3-2 大野市(旧大野市)における開催イベント

月	イベント名	会場	内容
2月	結の故郷 越前おおの冬物語	越前おおの結ステーションほか(大野市まちなか一円)	約300基の雪見灯ろう、雪のモニュメント、花火、冬のあったか市、ウォークラリー、「でっち羊かんまつり&ふるさと味物語」の同時開催等
5月	シバザクラまつり	国道158号線沿い(乾側地区)	シバザクラの花苗の予約・即売、旬の山菜や米パンなどの販売
	七間朝市 山菜フードピア	七間朝市	越前おおの豊かな自然に育まれた農産物や様々な種類の山菜などの販売、山菜茶屋の開設、花苗や友好都市や地域の物産や特産品などの販売
7月	森と湖に親しむ旬間	真名川ダム周辺	真名川ダム見学見学会、パネル展示、工作教室、流木工作教室、流木・堆肥の配布等
8月	おおの城まつり	大野市内の各会場	大花火大会、地元の小学生の芸能発表会、中学生みこしダンスパフォーマンス、盆踊りなど
10月	三大朝市物産まつり	大野市内の各会場	農産物を中心とした「越前おおの」の特産・名産品の即売市、友好都市や近隣のまちの物産市等

◆結の故郷 越前おおの冬物語(2月)

大野の冬の一大イベントで、雪で作成されたモニュメントや雪見灯ろうやイルミネーションなどで会場を彩る。花火もあがり、越前おおのの冬の風物詩のひとつとなっている。「でっち羊かんまつり&ふるさと味物語」が同時開催され、日曜には冬季休止中の「七間朝市」も特別に立ち、冬の味覚を堪能できる。



【写真出典：(一社)大野市観光協会】

◆シバザクラまつり(5月)

4月下旬から5月末ぐらいまで、シバザクラによる「花のジュータン」が約20haの水田地帯に広がっている。毎年5月のゴールデンウィーク中に開催され、シバザクラの花苗の予約・即売や、地元で採れた旬の山菜や地元の米を使った米パンなどが販売される。

◆七間朝市山菜フードピア(5月)

七間朝市の春季イベントとして、『春の味覚満載フードピアを』をキャッチフレーズに奥越の山々で収穫した、山菜を中心とする春の味覚を、存分に味わってもらう催し。山菜茶屋の開設や、花苗の即売、友好都市や朝市ゆかりの地域の物産や特産品なども販売される。



【写真出典：(一社)大野市観光協会】

◆森と湖に親しむ旬間(7月)

森と湖に親しみ心身をリフレッシュしながら、森林やダム湖の重要性について理解を深めていただくためことを目的としている。真名川ダム見学見学会、パネル展示、工作教室、流木工作教室、流木や堆肥の配布等が開催されている。



◆おおの城まつり(8月)

夏の一大イベント「おおの城まつり」は、毎年8月のお盆期間に4日間にわたり開催され、市内の各会場で踊りやイベント、大花火大会や「越前おおのおどり」など、浴衣の市民や帰省客で、情緒ある町は賑わいをみせる。



【写真出典：(一社)大野市観光協会】

◆三大朝市物産まつり(10月)

三大朝市物産まつりは、毎年10月の第4土日に七間通りで開催される秋の食祭である。大野の朝市を始め、友好市町の朝市や物産の即売など、各地のとれたての山海の幸が勢揃いする人気のイベントである。



【写真出典：(一社)大野市観光協会】

7.4 ダムと地域の関わりに関する評価

7.4.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理

真名川ダムは、真名川ダムは、「名水のまち」旧大野市の近郊に立地するダムであるが、雄大な奥越山岳地帯に位置する奥山型ともいえる立地条件にあり、周辺は福井県内で有数の林業地帯でもある。都市域との広域的な交流は比較的利便性が良く、大野市街地との連携・ネットワークにより、その活用が大いに見込める条件にある。

(1) 真名川ダム水源地域ビジョン(平成16年3月策定、平成18年2月に九頭竜ダム水源地域ビジョンと統合)

「真名川ダム水源地域ビジョン」は、大野の水文化の再生を目指し、現代の発達した社会経済の中に、昭和30年代の大野の水情緒を実現する「水のランドデザイン」を描くもので、この「水のランドデザイン」は、大野の山や川を「里山」や「身近な自然」として再生し、この再生の段階を地域活性化のテーマとするものである。

真名川ダム水源地域ビジョンの基本方針を図7.4-1に、施策の実施イメージを図7.4-2に示す。

【真名川ダム水源地域ビジョン 基本方針】

—里山の再生—水源林を保全する—

- 健全な水循環を確保する第一歩として、美しい森林の緑のダムを人々の理解や愛着によって再生する必要があります。
- 林業の活性化だけでなく、国土保全としての防災的な必要性とともに、雇用確保などの今後の社会的な課題となることが考えられます。

—清水や水路の自然再生—地域的な水管理に取り組む—

- 様々な用途で利用され重要な地域資源となっている大野の地下水や、市内の水路や河川などの地下水涵養の供給源を保全し、大野の情緒ある生活環境やうおいのある自然環境を再生します。
- 従来の地域用水の様々な管理状況を見直し、真名川ダムの貯水池運用の工夫とともに、下流の水路網の整備による農業用水の配水管理を検討します。
- イトヨやホタルが生息する水空間の再生や豊かな地下水を取り戻すとともに、水管理における関係機関での調整や市民参加での取り組みが極めて重要となります。

—人間関係の再生—上下流交流を促進する—

- 大野の水環境を改善しながら、高齢者福祉まで含めて地域の相互扶助が拡充していく必用があります。
- 地域の水環境の保全に向けて地域の共同体を再生し、さらに下流との広域交流の受け入れ体制づくりなどを進め、地域の結束を高めて人間関係を豊かにすることが重要です。

図 7.4-1 真名川ダム水源地域ビジョンの基本方針

【出典：真名川ダム水源地域ビジョン 平成16年3月】

「水のグランドデザイン」としてのビジョン施策のメニュー


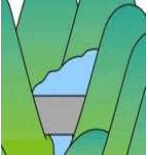
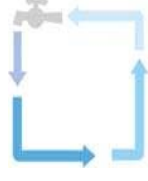


施策の柱	施策	具体的内容	
水源林の保全 (水源涵養と 林業の活性化) 	森林施業との連携	・健全な水循環・水源涵養機能保全や観光資源の保全のための森林施業と連携した山林の維持管理・保全	
	雑木林(里山)の活用	・交流拡大のための下草刈りや落葉かき等、山林保全活動と組合せて楽しめる多彩なイベント・メニューの提供	
	林業ボランティア	・循環型社会や環境をテーマに活動する各種の組織・団体等の幅広い環境ボランティアとの連携の検討 ・環境保全活動へのボランティア参加についてのメニュー企画や、意識啓発及び地域間交流の促進	
大野の「水」 	ダム管理と 周辺整備	河川の維持流量等の確保の研究 ・適正な水利用、河川及び市内水路での流量確保の研究 ・非かんがい期の「目に見える水路」に水を流す検討	
	地下水保全を図る 貯水池運用の研究	・真名川ダム貯水池運用の工夫による放流可能量の確保や、それによる地下水涵養等の研究	
	中島公園の充実	・日帰り・宿泊用のレクリエーションの機能の充実 ・周辺の山を生きた自然観察園としての活用 ・川や湖面での釣り等、水面の活用についての研究	
	大野盆地の 健全な水環境 	水路網の復元	・大野市の風景として市内を流れる水路網の景観保全 ・覆蓋されている水路での「せせらぎ」の可視化
		水を活かした公園 づくり	・水環境・親水性のある公園(ビオトープ)の整備
		農業用水管理との 連携	・地下水涵養源である田圃による湛水期間と面積の拡大 ・用排水路に可能な限りの通水
		地下水位のモニタ リング	・市内中心部の地下水位の監視の継続 ・市民や地下水利用者への理解のための地下水状況の広報
	水と社会との 関わり (情操や環境 啓蒙活動) 	水文化や愛護活動	・水文化や水の歴史をテーマにしたフォーラム等の開催 ・水環境保全の活動(河川清掃・生き物観察等)企画
		親和性の高い水生 生物の保全	・イトヨなどの水生生物とその生息環境保全の活動の継続 ・水辺の再生とそこに生きる動植物の保全活動
		家庭排水対策	・家庭雑排水の市内水路への直接排水の防止 ・市民の「水に関する意識」の高揚
上下流交流 (都市との 広域交流) 	NPO活動の拡充	・山林・河川の維持管理等、循環型社会や環境に関する各種の組織・団体・環境ボランティア等との連携や活動拡充	
	活動の人材の確保・育成	・交流活動の活性化に関する人材の発掘、人材ネットワークの作成、活性化活動をリードする団体・個人等の育成 ・各分野のマイスターや環境学習インストラクターの募集	
	近隣地域との相互 訪問	・環境保全活動へのボランティア参加についてのメニュー企画や、意識啓発及び地域間交流の促進	
	県外との交流	・受益地等の関係地域の住民による水源地域の維持管理の参加のため、環境ボランティアの参加・受入れ体制の確立	
	中山間地域の活用	・周辺市町村からの誘致などによるグリーンツーリズム	
各種情報の発信	・水源地の実態や都市交流のための情報発信 ・地域の相互連携や都市との交流のための各種情報の発信 ・光ファイバー網の活用		

図 7.4-2 真名川ダム水源地域ビジョン 施策メニュー

【出典：真名川ダム水源地域ビジョン 平成16年3月】

(2) 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンの推進

平成17年11月の旧大野市と旧和泉村の合併に伴い、真名川ダム・九頭竜ダムの水源地域ビジョンを一体的に推進するため、平成18年2月に「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会」が設立された。

「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン」は、ダム水源地域の自治体・住民等がダム事業者・管理者と共同で策定主体となり、下流の自治体・住民や関係行政機関に参加を呼びかけながら策定する、水源地域活性化のための行動計画である。

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンでは、「森林」、「水」、「交流」を3つの柱のもとに水源林の保全や活用、健全な水環境の形成、多様な水辺の活用、活発な地域間の交流など様々な施策を実行することにより、水源地域の持続的な発展を目指す。

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンの活動イメージ、施策概要図を以下に示す。



図 7.4-3 真名川ダム・九頭竜川ダム水源地域ビジョンの活動イメージ

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】



図 7.4-4 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン 施策概要図

【出典：平成 29 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 平成 30 年 3 月】

7.4.2 地域とダムとの関わり

真名川ダムでは、地元地域との関わりとしてダム見学会開催などの様々な活動を実施している。平成25(2013)～29(2017)年の活動を表7.4-1に示す。

表 7.4-1 真名川ダムにおける地域との交流に係る活動(平成25年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
平成25年5月18、19日	第27回九頭竜新緑まつり	九頭竜国民休養地	・新緑ステージ、新緑市場、遊びの広場、くらしの情報コーナー、化石発掘体験、トロッコ列車乗車体験など	約27,500人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成25年7月6日	越前おおのエコフィールド「どんぐりの森づくりイベント」	平家平の私有林	・下草刈り ・補植作業	約30人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成25年7月6、7日	第6回もりみずカップ少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場	平成20年に開かれた「森と湖に親しむ旬間全国大会」のメモリアルイベントとして、九頭竜川水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子どもたちの心身ともに健全な発育を図るため、九頭竜川流域の少年サッカーチームを招き、技術の向上のみならず、相互の親善を図るため開催。「森と湖に親しむ旬間全国大会」のシンボルフラッグが昨年度から本大会の優勝旗となっており、優勝チームに贈呈された。	延べ12チーム	もりみずカップ実行委員会、フェンテ大野フットボールクラブ
平成25年7月27日	森と湖に親しむ旬間行事「ダム見学会」	真名川ダム	真名川ダム見学会 ・ダム見学 (堤体内通路、ギャラリー、噴水、操作室等) ・紙飛行機飛ばし(水溶紙) ・美しい森づくりを目指して展示と森のマスコット作り ・福井の森とダムについて学ぼう ・再生可能エネルギー導入に向けた取り組み、環境保全活動の紹介 ・ダムマニアとの連携 ・流木・堆肥・おが粉のプレゼント	約200人	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会
		浄土寺川ダム(勝山市) 笹生川ダム(大野市)	・ダム見学(操作室等) ・ダムの構造等の説明	31人	
平成25年8月29日	第4回大野市湧水文化再生推進連絡協議会	大野市役所	古くからある湧水の再生や大野市特有の湧水文化を後生へ引き継ぐことを目的とし、国・県・市などの関係機関や団体、市民や企業がそれぞれの役割を担い、総合的な取り組みを進めるため、平成23年度に「越前おおの湧水文化再生計画」を策定。計画に基づき、平成25年度に取り組んだ各施策の推進状況の報告及び協議。	—	大野市湧水文化再生推進連絡協議会
平成25年10月14日	越前おおのエコフィールド「どんぐりの森づくりイベント」	越前おおのエコフィールド 秋生地区	・どんぐり拾い ・どんぐりの種まき ・どんぐりの越冬作業	約220人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成25年10月17日～11月27日	ダム周辺の紅葉情報をホームページで提供	真名川ダム湖周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成25年10月26、27日	第34回九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民休養地	・紅葉ステージ、紅葉市場、遊びの広場、くらしの情報コーナー、化石発掘体験、トロッコ列車乗車体験など ・流木の無料配布 ・越前美濃街道広域観光交流推進協議会PR	約38,000人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成25年11月10日	「水源地の森づくり」第8回植樹会	真名川ダム上流の笹生川沿い	NPOドラゴンリバー交流会の会員の方が、ドングリから育てたコナラなどの苗木約300本を提供していただき、各自が持ち寄ったスコップやクワなどで植樹。今年度は、苗木の育成を促進するため、ダム湖の流木から作った堆肥を根元に、また防草のために流木のチップを周辺に施した。	57人	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会
平成26年2月12日	真名川ダム弾力的管理検討委員会	多田記念大野有終会館(結とびあ)	洪水調節容量の一部に貯留した容量を利用して、ダム下流真名川の河川環境の保全・改善を図る。	—	真名川ダム弾力的管理検討委員会
平成26年2月12日	第5回大野市湧水文化再生推進連絡協議会	大野市役所	古くからある湧水の再生や大野市特有の湧水文化を後生へ引き継ぐことを目的とし、国・県・市などの関係機関や団体、市民や企業がそれぞれの役割を担い、総合的な取り組みを進めるため、平成23年度に「越前おおの湧水文化再生計画」を策定。計画に基づき、平成25年度に取り組んだ各施策の推進状況の報告及び協議。	—	大野市湧水文化再生推進連絡協議会
通年	ダムカードの配布	真名川ダム	ダム管理支所にて来訪者にダムカードを配布	1,163枚 (累計7,187枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所
	真名川ダム環境マップの配布	真名川ダムほか	ダム湖周辺の自然環境を楽しんでもらうために、現在生息している魚、昆虫、鳥、動物、植物などの自然環境をわかりやすく紹介したポケットサイズのマップ。全12ページで構成。ダム見学に来られた方及び森と湖に親しむ旬間行事ダム見学会、九頭竜新緑まつり・紅葉まつりで配布。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
	真名川ダム内部見学	真名川ダム	・Aコース(60分) 上段監査廊、主放水設備、維持放流棟、噴水前を案内 ・Bコース(30分) 維持放流棟、噴水前を案内	278人	九頭竜川ダム統合管理事務所
	真名川水辺の楽校バイオフレズ	大野市南新在家河川敷	・子供たちや地域住民が川とふれあい親しむことのできる観水活動の場 ・自然体験、自然学習の場 ・多種多様な動植物が生息生育できる水辺空間 上記の場の保全と創出を図るとともに、持続的かつ有効に活用して、利用方法、維持管理、モニタリング調査を継続的にを行い、目標とする生態系を目指している。	合計参加人数 29人	真名川水辺の楽校バイオフレズ

【出典：平成25年度 真名川ダム年次報告書】

表 7.4-1 真名川ダムにおける地域との交流に係る活動(平成26年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
平成26年5月17、18日	第28回九頭竜新緑まつり	九頭竜国民休養地	・新緑ステージ、新緑市場、遊びの広場、くらしの情報コーナー、化石発掘体験、トロッコ列車乗車体験、カヌー操縦体験など	約48,500人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成26年7月6日	越前おおのエコフィールド「どんぐりの森づくりイベント」	平家平の私有林	・下草刈り ・補植作業	約30人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成26年6月28、29日	第7回もりみずカップ少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場	平成20年に開かれた「森と湖に親しむ旬間全国大会」のメモリアルイベントとして、九頭竜川水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子どもたちの心身ともに健全な発育を図るため、九頭竜川流域の少年サッカーチームを招き、技術の向上のみならず、相互の親善を図るため開催。「森と湖に親しむ旬間全国大会」の大会旗を本大会の優勝旗にするという形で、豊かな自然を愛する心・感謝する心が受け継がれている。	延べ12チーム	もりみずカップ実行委員会、フエンテ大野フットボールクラブ
平成26年7月26日	森と湖に親しむ旬間行事「ダム見学会」	真名川ダム	真名川ダム見学会 ・ダム見学 (堤体内通路、放水・噴水、等) ・紙飛行機飛ばし(水溶紙) ・美しい森づくりを目指して展示と森のマスコット作り ・福井の森とダムについて学ぼう ・再生可能エネルギー導入に向けた取り組み、環境保全活動の紹介 ・ダムマニアとの連携 ・流木・堆肥・薪のプレゼント	約210人	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会
	【新規】日帰り留学	麻那姫湖青少年旅行村	下流域の子ども達(親子)に短期留学をしてもらい、自然体験等を通して上下流域間の交流と連携の強化、防災意識の向上を図る。福井豪雨から10年となる平成26年より実施。 ・石の文鎮づくり ・魚つかみ体験 ・川の健康診断 ・丸太切り・コースター作成等	58人 (大人12人、子供46人)	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成26年9月5日	第6回大野市湧水文化再生推進連絡協議会	大野市役所	古くからある湧水の再生や大野市特有の湧水文化を後生へ引き継ぐことを目的とし、国・県・市などの関係機関や団体、市民や企業がそれぞれの役割を担いつつ、総合的な取り組みを進めるため、平成23年度に「越前おおの湧水文化再生計画」を策定。計画に基づき、平成25年度に取り組んだ各施策の推進状況の報告及び協議。	—	大野市湧水文化再生推進連絡協議会
平成26年7月20日～8月31日(夏休み) 4月26日～11月30日の土・日・祝	【新規】化石発掘体験	J R 九頭竜湖駅裏	交流人口の増加と地域活性化を目的、九頭竜川上流域の地層から産出される恐竜やアンモナイト、貝類、植物などの化石を活用し、発掘体験を開催。	約2,381人	大野市 九頭竜化石研究会
平成26年10月8日～11月28日	ダム周辺の紅葉情報をホームページで提供	真名川ダム湖周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成26年10月25、26日	第35回九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民休養地	・紅葉ステージ、紅葉市場、遊びの広場、くらしの情報コーナー、化石発掘体験、トロッコ列車乗車体験など ・流木の無料配布 ・越前美濃街道広域観光交流推進協議会PR	約66,500人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成27年8月5日	真名川ダム弾力的管理検討委員会	福井テレビホール	洪水調節容量の一部に貯留した容量を利用して、ダム下流真名川の河川環境の保全・改善を図る。	—	真名川ダム弾力的管理検討委員会
平成27年2月27日	第7回大野市湧水文化再生推進連絡協議会	大野市役所	古くからある湧水の再生や大野市特有の湧水文化を後生へ引き継ぐことを目的とし、国・県・市などの関係機関や団体、市民や企業がそれぞれの役割を担いつつ、総合的な取り組みを進めるため、平成23年度に「越前おおの湧水文化再生計画」を策定。計画に基づき、平成25年度に取り組んだ各施策の推進状況の報告及び協議。	—	大野市湧水文化再生推進連絡協議会
平成27年2月28日～3月15日(前半) 平成27年3月16日～3月24日(後半)	パネル展	大野市役所(1階市民ホール)	大野市と九頭竜川ダム統合管理事務所の協働によるパネル展。前半は、東日本大震災から4年国土交通省の取り組みと題し、後半は、伊勢湾台風(昭和34年9月)、奥越豪雨(昭和40年9月)の被災状況等について開催。	—	大野市 九頭竜川ダム統合管理事務所
通年	ダムカードの配布	真名川ダム	ダム管理支所にて来訪者にダムカードを配布	1,080枚 (累計8,267枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所
	真名川ダム環境マップの配布	真名川ダムほか	ダム湖周辺の自然環境を楽しんでもらうために、現在生息している魚、昆虫、鳥、動物、植物などの自然環境をわかりやすく紹介したポケットサイズのマップ。全12ページで構成。ダム見学に来られた方及び森と湖に親しむ旬間行事ダム見学会、九頭竜新緑まつり・紅葉まつりで配布。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
	真名川ダム内部見学	真名川ダム	・Aコース(60分) 上段監査部、主放水設備、維持放流棟、噴水前を案内 ・Bコース(30分) 維持放流棟、噴水前を案内	327人	九頭竜川ダム統合管理事務所
	真名川水辺の薬校バイオフレズ	大野市南新在家河川敷	・子供たちや地域住民が川とふれあい親しむことのできる親水活動の場 ・自然体験、自然学習の場 ・多種多様な動植物が生息生育できる水辺空間 上記の場の保全と創出を図るとともに、持続的かつ有効に活用して、利用方法、維持管理、モニタリング調査を継続的に行い、目標とする生態系を目指している。	延べ21人 (会員)	真名川水辺の薬校バイオフレズ

【出典：平成26年度 真名川ダム年次報告書】

表 7.4-1 真名川ダムにおける地域との交流に係る活動(平成27年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
平成27年5月16、17日	第29回九頭竜新緑まつり	九頭竜国民休養地	・新緑ステージ・新緑市場、ウォーターダッグ ジュニアスラックライン、化石発掘体験、フリー マーケットなど ・流水の無料配布と流水工作教室	約24,500人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成27年6月20、21日	第8回もりみずカップ少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場	平成20年に開かれた「森と湖に親しむ旬間全国大会」のメモリアルイベントとして、九頭竜川水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子どもたちの心身ともに健全な発育を図るため、九頭竜川流域の少年サッカーチームを招き、技術の向上のみならず、相互の親善を図るため開催。「森と湖に親しむ旬間全国大会」の大会旗を本大会の優勝旗にするという形で、豊かな自然を愛する心・感謝する心が受け継がれている。	延べ16チーム	もりみずカップ実行委員会、フエテ大野フットボールクラブ
平成27年7月5日	越前おおのエコフィールド「ドングリの森づくりイベント」	平家平の私有林	・下草刈り ・植樹作業	約30人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成27年7月25日	森と湖に親しむ旬間行事「ダム見学会」	真名川ダム	真名川ダム見学会 ・ダム見学 (堤体内通路、キャットウォーク、管理用発電設備、噴水設備、コンジットゲートからバルブ放流への切替等) ・クレストゲート4門の開扉 ・紙飛行機飛ばし(水溶紙) ・美しい森づくりを目指して展示と森のマスコット作り ・福井の森とダムについて学ぼう ・再生可能エネルギー導入に向けた取り組み、環境保全活動の紹介 ・ダムマニアとの連携 ・流水・堆肥・薪のプレゼント	約170人	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会
平成27年8月5日	真名川ダム弾力的管理検討委員会	福井テレビホール	洪水調節容量の一部に貯留した容量を利用して、ダム下流真名川の河川環境の保全・改善を図る。	—	真名川ダム弾力的管理検討委員会
平成27年8月22日	日帰り留学	麻那姫湖青少年旅行村(中島公園)	下流地域の子ども達(親子)に短期留学をしてもらい、自然体験等を通して上下流域間の交流と連携の強化、防災意識の向上を図る。福井豪雨から10年となる平成26年より実施。 ・ネイチャージョ ・魚つかみ体験 ・川の健康診断 ・ミズ水クイズ	約20人	九頭竜川ダム統括管理事務所
平成27年10月8日	第8回大野市湧水文化再生推進連絡協議会	大野市役所	古くからある湧水の再生や大野市特有の湧水文化を後生へ引き継ぐことを目的とし、国・県・市などの関係機関や団体、市民や企業がそれぞれの役割を担い、総合的な取り組みを進めるため、平成23年度に「越前おおの湧水文化再生計画」を策定。計画に基づき協議会では、各施策の推進状況の報告や協議などを行い、関係機関や団体の連携強化を図る。	—	大野市湧水文化再生推進連絡協議会
平成27年10月5日～11月16日	ダム周辺の紅葉情報をホームページで提供	真名川ダム(麻那姫湖)周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統括管理事務所ホームページに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統括管理事務所
平成27年10月12日	越前おおのエコフィールド「ドングリの森づくりイベント」	平家平の私有林、秋生地区	・ドングリ拾い ・種植え ・植樹	約150人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成27年10月24、25日	第36回九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民休養地	・紅葉ステージ、紅葉市場、ふるまい大鍋、トロッコ列車乗車体験、つり堀、木工工作コーナーなど ・流水の無料配布と流水工作教室	約65,000人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成27年10月27日	「水源地の森づくり」第9回植樹会	真名川ダム上流の笹生川沿い	NPOドラゴンリバー交流会の会員がドングリから育てたコナラなどの苗木約300本の植樹。また、10周年を記念して、樹高約3mのシンボルツリーの植樹。	計14団体54名	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会
平成28年2月15日	第9回大野市湧水文化再生推進連絡協議会	大野市役所	古くからある湧水の再生や大野市特有の湧水文化を後生へ引き継ぐことを目的とし、国・県・市などの関係機関や団体、市民や企業がそれぞれの役割を担い、総合的な取り組みを進めるため、平成23年度に「越前おおの湧水文化再生計画」を策定。計画に基づき協議会では、各施策の推進状況の報告や協議などを行い、関係機関や団体の連携強化を図る。 なお、第9回の協議会では、水循環基本法・水循環基本計画に基づき、流域における様々な主体が連携して施策に取り組むため、本協議会を「大野市水循環・湧水文化再生推進連絡協議会」と改め、水循環の保全に関し、さらに取り組むことを決定した。	—	大野市湧水文化再生推進連絡協議会
平成27年10月23日～10月28日	防災パネル展	ショッピングモールヴィオ(大野市銀座)	真名川ダム建設の契機となった昭和40年9月の奥越豪雨から今年で50年の節目にあたることから、真名川ダム・九頭竜ダムの概要(防災の役割)の紹介をはじめ、奥越豪雨当時の大野市内の甚大な被害状況並びに、平成23年3月11日に発生した東日本大震災及び、今年9月に発生した関東・東北豪雨による被害と国土交通省の対応状況についての紹介など。	—	大野市九頭竜川ダム統括管理事務所
通年	ダムカードの配布	真名川ダム	ダム管理支所にて来訪者にダムカードを配布	1,610枚 (累計9,877枚)	九頭竜川ダム統括管理事務所
	九頭竜ダム環境マップの配布	九頭竜ダムほか	ダム湖周辺の自然環境を楽しんでもらうために、現在生息している魚、昆虫、鳥、動物、植物などの自然環境をわかりやすく紹介したポケットサイズのマップ。全12ページで構成。ダム見学に来られた方及び森と湖に親しむ旬間行事ダム見学会、九頭竜新緑まつり・紅葉まつりで配布。	—	九頭竜川ダム統括管理事務所
	真名川ダム内部見学	真名川ダム	・Aコース(60分) 管理支所→ゲート室→水力発電機室→噴水前 ・Bコース(30分) B1コース:管理支所→ゲート室 B2コース:管理支所→水力発電機室→噴水前 を見学	326人	九頭竜川ダム統括管理事務所
	真名川水辺の楽校ピオフレズ	大野市南新在家河川敷	・子供たちや地域住民が川とふれあい親しむことのできる親水活動の場 ・自然体験、自然学習の場 ・多種多様な動植物が生息生育できる水辺空間 上記の場の保全と創出を図るとともに、持続的かつ有効に活用して、利用方法、維持管理、モニタリング調査を継続的に、目標とする生態系を目指している。	延べ14人(会員)	真名川水辺の楽校ピオフレズ

【出典：平成27年度 真名川ダム年次報告書】

表 7.4-1 真名川ダムにおける地域との交流に係る活動(平成28年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
平成28年5月14、15日	第30回九頭竜新緑まつり	九頭竜国民休養地	・新緑ステージ、新緑市場、カヌー体験教室、饅頭まき、化石発掘体験、ふるまい大鍋、流木の無料配布など ・パネル展示	約26,500人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成28年6月18、19日	第9回もりみずカップ少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場	平成20年に開かれた「森と湖に親しむ旬間全国大会」のメモリアルイベントとして、九頭竜川水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子どもたちの心身ともに健全な発育を図るため、九頭竜川流域の少年サッカーチームを招き、技術の向上のみならず、相互の親善を図るため開催。「森と湖に親しむ旬間全国大会」の大会旗を本大会の優勝旗にするという形で、豊かな自然を愛する心・感謝する心が受け継がれている。	延べ16チーム	もりみずカップ実行委員会、フェンテ大野フットボールクラブ
平成28年7月30日	森と湖に親しむ旬間行事「ダム見学会」	真名川ダム	・ダム見学(堤体内通路、キャットウォーク、管理用発電設備、噴水設備等) ・クレストゲート4門の開扉 ・紙飛行機飛ばし(水溶紙) ・流木工作教室 ・美しい森づくりを目指して展示と森のマスコット作り ・福井の森とダムについて学ぼう ・再生可能エネルギー導入に向けた取り組み、環境保全活動の紹介 ・足羽川ダム建設事業の紹介 ・ダムマニアとの連携 ・堆肥のプレゼント	約400人	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会
		菅生川ダム(大野市)	・ダム見学(操作室等) ・ダムの構造等の説明	約70人	
平成28年8月20日	日帰り留学	麻那姫湖青少年旅行村(中島公園)	上下流域の子ども達(親子)に短期留学をしてもらい、山林・里山・田園地域での自然体験等を通して上下流域間の交流と連携の強化、防災意識の向上を図る。福井豪雨から10年となる平成26年より実施。 ・ネイチャーゲーム ・川の健康診断 ・ミズ水クイズ	約30人	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成28年10月11日～11月21日	ダム周辺の紅葉情報提供	真名川ダム(麻那姫湖)周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページ及びツイッターに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成28年10月10日	越前おおのエコフィールド「どんぐりの森づくりイベント」	どんぐり広場(大野市稲郷)	・記念植樹 ・どんぐりの越冬作業 ・苗の植え付け ・どんぐり拾い	約120人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成28年10月29、30日	第37回九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民休養地	・紅葉ステージ、紅葉市場、トロッコ列車乗車体験、つり堀、木工工作コーナー、流木の無料配布など ・パネル展示	約61,000人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成28年11月22日	第1回大野市水循環・湧水文化再生推進連絡協議会	大野市役所	古くからある湧水の再生や大野市特有の湧水文化を後世へ引き継ぐことを目的とし、国・県・市などの関係機関や団体、市民や企業がそれぞれの役割を担いつつ、総合的な取り組みを進めるため、平成23年度に「越前おおの湧水文化再生計画」を策定。計画に基づき各施策に取り組んだ。なお、昨年度の協議会において、名称を「大野市湧水文化再生推進連絡協議会」から「大野市水循環・湧水文化再生推進連絡協議会」と改め、水循環の保全に関し、さらに取り組むことを決定している。	—	大野市水循環・湧水文化再生推進連絡協議会
平成28年10月25日～10月30日	防災パネル展	ショッピングモールヴィオ(大野市銀掛)	真名川ダム建設の契機となった奥越豪雨(昭和40年9月)から50年の節目となった平成27年より、大きな被害をもたらす台風や地震などへの防災・減災への意識向上を目的として実施。奥越豪雨による旧西谷村の災害などの貴重な過去の災害記録、国土交通省の近年の災害対応状況、ダムの役割などの紹介を行った。	—	大野市 九頭竜川ダム統合管理事務所
平成29年2月28日	平成28年度真名川ダム弾力的管理検討委員会	多田記念大野有終会館	洪水調節容量の一部に貯留した容量を利用して、ダム下流真名川の河川環境の保全・改善を図る。	—	真名川ダム弾力的管理検討委員会
通年	ダムカードの配布	真名川ダム	ダム管理支所にて来訪者にダムカードを配布	2,523枚(累計12,619枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所
	真名川ダム内部見学	真名川ダム	・Aコース(60分) 管理支所→ゲート室→水力発電機室→噴水前 ・Bコース(30分) B1コース:管理支所→ゲート室 B2コース:管理支所→水力発電機室→噴水前を見学	650人	九頭竜川ダム統合管理事務所

【出典：平成28年度 真名川ダム年次報告書】

表 7.4-1 真名川ダムにおける地域との交流に係る活動(平成29年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
平成29年5月20、21日	第31回九頭竜新緑まつり	九頭竜国民体育地	・新緑ステージ、新緑市場、リバーアクティビティ体験、ツリークライミング体験、トロコロ列車乗車体験、化石発掘体験、ふるまい大鍋、流木無料配布、木工体験、国体PR企画 など ・パネル展示	25,500人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成29年6月17日	九頭竜川※クリーンアップ大作戦※「流域全体」という意味で九頭「龍」川にしている。	真名川(君が代橋の下広場)	・ゴミ拾い ・水質検査	約90人	NPO法人ドラゴンリバー交流会、奥越漁業協同組合、大野市漁業協同組合
平成29年6月17、18日	第10回もりみずカップ少年サッカー大会	大野市真名川憩いの島サッカー場	平成20年に開かれた「森と湖に親しむ旬間全国大会」のメモリアルとして、九頭竜川水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子どもたちの心身ともに健全な発育を図るため、九頭竜川流域の少年サッカーチームを招き、相互の親善を深めるとともに、個人技術の上達を図るため開催。「森と湖に親しむ旬間全国大会」の大会旗を本大会の優勝旗にするという形で、豊かな自然を愛する心・感謝する心が受け継がれている。	延べ16チーム	もりみずカップ実行委員会、フエンテ大野フットボールクラブ
(第2回)平成29年7月25日(第3回)平成30年3月26日	大野市水循環・湧水文化再生推進連絡協議会	大野市役所	を後世へ引き継ぐことを目的とし、国・県・市などの関係機関や団体、市民や企業がそれぞれの役割を担いつつ、総合的な取り組みを進めるため、平成23年度に「越前おおの湧水文化再生計画」を策定。計画に基づき各施策に取り組んだ。協議会では、各施策の推進状況の報告や協議などを行い、関係機関や団体の連携強化を図る。現在、「越前おおの湧水文化再生計画」の改訂作業を行っている。	—	大野市水循環・湧水文化再生推進連絡協議会
平成29年7月29日	森と湖に親しむ旬間行事「ダム見学会」	真名川ダム	・ダム見学(堤体内通路、見学ステージからダム本体、噴水設備等) ・流木工作教室 ・美しい森づくりを目指して展示と森のマスコット作り ・ヒノキのボール並べゲーム ・パネル展示 ・流木、堆肥のプレゼント ・笹生川ダム見学参加者には、笹生川ダム施工60周年記念のシールを貼付したダムカードを配布(限定1,000枚)	約400人	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会
		笹生川ダム	・ゲートや堤体内などの見学、説明 ・笹生川ダム施工60周年記念のシールを貼付したダムカードを配布(限定1,000枚)	約100人	
(第1回)平成29年8月7日(第2回)9月15日(第3回)10月11日(第4回)12月6日	水源地域ビジョン意見交換会	大野商工会議所等	これまで、真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンは個々の活動に留まり、水源地域全体では年一度の推進委員会での活動報告を行うのみであった。平成30年に九頭竜ダムが管理開始50周年を迎えることを契機に、「実際にできること」をみなさんと話し合い、できることから実施していくことで、今まで以上に水源地域の活性化を推進していくことを目的に意見交換会を実施した。	17人	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成29年8月19日	日帰り留学	真名川ダム、麻那姫湖青少年旅行村(大野市中島)	上下流域から約14人の子ども達(親子)に参加してもらい、普段なかなか体験することの出来ない自然体験等を通して、水源林や水の大切さや、流域の人々とのふれあいを図る。福井豪雨から10年となる平成26年より実施。 ・真名川ダム見学 ・ネイチャーゲーム ・川の健康診断 ・ミズクイズ	14人	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成29年10月9日	越前おおのエコフィールド「どんぐりの森づくりイベント」	平家平、秋生、越前おおのエコフィールド	・どんぐりの苗木越冬作業 ・どんぐり拾い	約120人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成29年10月13日～12月1日	ダム周辺の紅葉情報提供	真名川ダム周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖を巡視した際に写真を撮影し、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページ及びツイッターに掲載し、ダム湖周辺の紅葉見物予定している観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成29年10月28、29日	第38回九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民体育地	・紅葉ステージ、紅葉市場、化石発掘体験、トロコロ列車乗車体験、木工工作コーナー、流木の無料配布、ふるまい大鍋 など ・パネル展示 ・ダムカード撮影会(九頭竜ダムが平成30年に管理開始50周年を迎えるため)	36,000人	大野市・九頭竜まつり実行委員会
平成29年11月11日	「水源の森づくり」第10回植樹会	真名川ダム上流笹生川沿い(福井県大野市中島)	NPOドラゴンリバー交流会の会員がどんぐりから育てたコナラなどの苗木約200本を各自が持ち寄ったスコップで植樹。ダム湖の流木処理材を利用して作った堆肥を、根元に施した。	50人(12団体・一般参加者)	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会
平成30年1月12日～1月17日	防災パネル展	福井駅東口側商業施設アオサ1階アトリウム(福井市)	大きな被害をもたらす台風や地震などへの防災・減災への意識向上を目的として実施。真名川ダム建設の契機となった奥越豪雨(昭和40年9月)による旧西谷村の災害などの貴重な過去の災害記録、国土交通省の近年の災害対応状況、ダムの役割などの紹介を行った。	約500名	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成30年1月19日	真名川ダム農産物貯蔵	真名川ダム	年間を通して温度・湿度が安定している真名川ダムの漏水防止のために作られたトンネルを活用して、野菜やコメなどを一時貯蔵する実験を行った。	—	大野市、九頭竜川ダム統合管理事務所
通年	ダムカードの配布	真名川ダム	ダム管理支所にて来訪者にダムカードを配布	2,236枚(累計14,855枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所
	真名川ダム見学	真名川ダム	・60分コース 管理支所→ゲート室→水力発電機室→噴水前 ・30分コース B1コース：管理支所→ゲート室 B2コース：管理支所→水力発電機室→噴水前 を見学	420人	九頭竜川ダム統合管理事務所

【出典：平成29年度 真名川ダム年次報告書】

7.5 ダム周辺の状況

7.5.1 ダム周辺整備の状況

真名川ダム周辺環境整備事業は、真名川ダムの建設と合わせてダム周辺環境整備を実施し、ダム湖及び周辺区域の自然環境を活用して、周辺地域の活性化を図るものである。

真名川ダム貯水池周辺の環境整備は、ダム・貯水池周辺のうち、ダムサイト周辺地区、若生子大橋周辺付近(貯水池中流部)、中島地区(貯水池上流部)の3ヶ所を対象に整備を行っている。

環境整備のテーマは「四季の変化」とされており、各地区に分担させ、植栽によって表現させるようにした(図 7.5-1)。

- 1) ダムサイト付近：春をテーマとし、桜を基調とした展望の場を左岸、修景の場を右岸という風に植栽や整備を行った。
- 2) 若生子大橋付近：夏をテーマとし、日の谷橋下の滝周辺を整備し、滝のある景観、休憩スペース、駐車場の整備を行った。
- 3) 中島地区：秋をテーマにし、紅葉のイメージを基調とした植栽を行い、総合公園的な整備を行った。

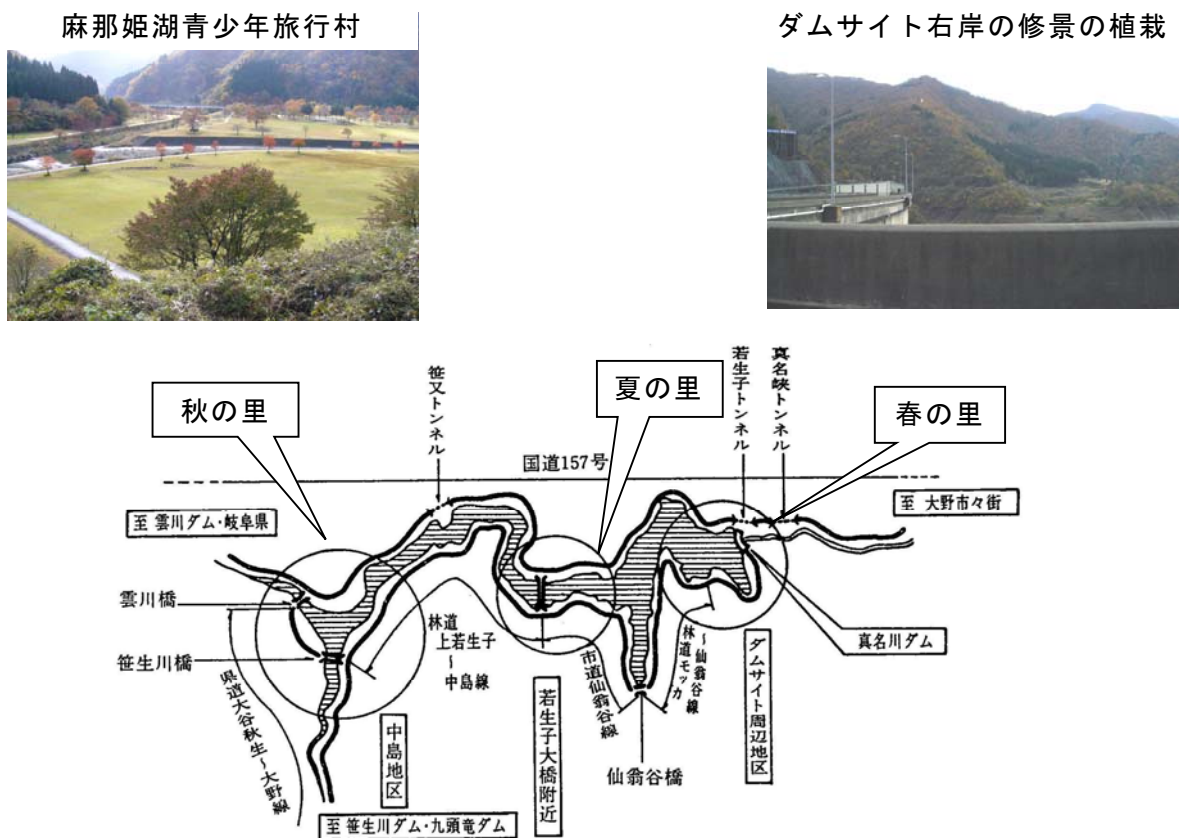


図 7.5-1 真名川ダム周辺環境整備位置図

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

表 7.5-1(1) 真名川ダム貯水池周辺整備事業(ダムサイト地区)

整備内容	施工内容	数量等
記念碑	コンクリート	95m ³
	舗装(アスファルト・カラー)	270m ²
	石およびモルタル張り	324m ²
	モニュメント コンテル材	2t
	植栽、低木	540本
案内板	舗装アスファルト	480m ²
	舗装カラー	453m ²
	コンクリート	29m ³
	石およびタイル	
	案内板(黒ミカゲ)	12m ²
	植栽高・低木	275本
慰霊碑	舗装(土間コンクリート)	10m ²
	コンクリート(RC)	28m ³
	石工事	7m ²
	レリーフ(ブロンズ0.75m×2m)	
	植栽高・低木	340本
展望台	植栽 桜、まつげ	30本
	盛 土	250m ²
	芝 生	400m ²
左岸道路沿い整備	舗装アスファルト	2,000m ²
	手摺り	260m
	盛 土	1,500m ²
	コンクリート	100m ³
	植栽	32本
骨材プラント跡整備	整 地	1式
	植栽 桜	410本
その他	1 式	

表 7.5-1(2) 真名川ダム貯水池周辺整備事業(若生子大橋付近)

整備内容	施工数量	摘 要
盛土	700m ²	
アスファルト舗装	100m ²	縁石工 60m
砂利舗装	500m ²	} 景観木、主木等
高木植栽	100本	
中木植栽	120本	
低木植栽	150本	
芝生	800m ²	
その他雑工事	1式	ベンチ、くず入れ、灰皿、案内板等

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

表 7.5-1(3) 真名川ダム貯水池周辺整備事業(中島地区)

整備内容	施工数量	摘要
切土	100,200m ³	昭和53年度施工
盛土	112,800m ³	〃
高木植栽	4,248本	〃
低木植栽	11,045株	〃
草木植栽	2,600株	〃
種子吹付	44,050m ²	〃
種子蒔付	61,740m ²	〃
道路延長	3,607m	幅員5m:185m、2.5m:2,230m 幅員4m:1,112m、1.5m:80m
アスファルト舗装	11,670m ²	〃
張芝	27,380m ²	〃
雑工事	1 式	車止め24基、排水溝90m 広場施設(中央)1式

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

7.5.2 大野市によるダム貯水池周辺整備

真名川ダム貯水池周辺整備のなかで、表 7.5-2 に示す「秋の里」の中島地区の整備を昭和53年より大野市が実施してきた。

また、青少年の健全な旅行の推進を図り、あわせて過疎地域の振興に資する観光施設として、旧運輸省の補助制度を利用し、昭和40年9月の奥越豪雨によって壊滅的な被害を受けた大野市旧西谷村の跡地に麻那姫湖青少年旅行村(中島公園)を整備した。

春の里には、平成4年に麻那姫湖の由来となった麻那姫像の銅像を建てるなどの整備を実施している。

表 7.5-2 真名川ダム貯水池周辺整備事業(中島地区)

事業・年度		施工内容		
第一期事業	昭和53年	便所	1カ所	4穴
	昭和54年	給水施設	1カ所	2栓
		便所	1カ所	4穴
		緑の教室	1カ所	1,200m ²
		駐車場	舗装	
	昭和55年	バレーコート	クレ舗装	1,800m ²
		テニスコート	クレ舗装	1,400m ²
		便所	1カ所	4穴
	昭和56年	林の遊場	遊具等	1,600m ²
		自然植物園	植栽	2,500m ²
駐車場		舗装	1,450m ²	
給水施設		1カ所	2栓	
電気設備		3カ所		
第二期事業	昭和57年以降	管理棟		150m ²

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

麻那姫像



7.5.3 ダム周辺施設の利用状況

大野市(旧大野市域)における最近10年間の観光入込み客数を以下に示す。

最近10年間の観光入込み客数は、平成28年の約138万人が最も多く、平成26年から増加傾向にある。平成26年は「結の故郷発祥祭」として、1年通してイベントを開催したことにより、観光入込み客数は大幅に増加したと思われる。平成27年には北陸新幹線開通(東京～金沢)やそれに伴うキャンペーン、「天空の城越前大野城」が全国メディア等で採り上げられるなど、大野市の観光地としての認知度が高まったことや、麻那姫湖周辺で音楽イベントの開催、文化施設「武家屋敷旧田村家」が開館したことが、観光入込み客数の増加に結びついたと考えられる。

真名川ダムの見学者数は平成25年度までは減少傾向であったが、平成26年度以降は増加傾向にある。「森と湖に親しむ旬間」には毎年、多数の参加者がある。

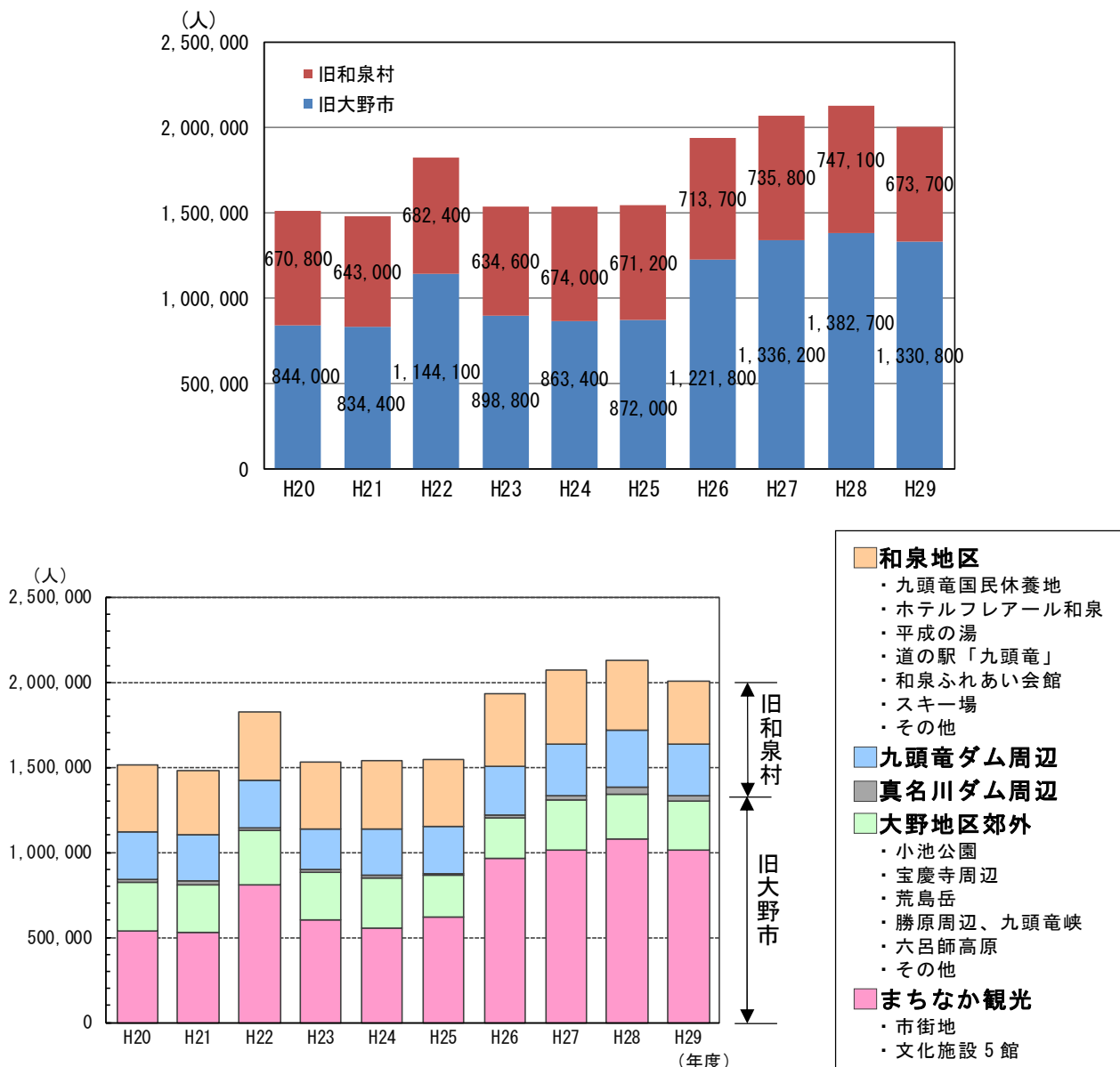


図 7.5-2 大野市における観光入込み客数の推移
(上図: 旧和泉村と旧大野市の内訳、下図: 詳細内訳)

【出典: 大野市商工観光課資料】

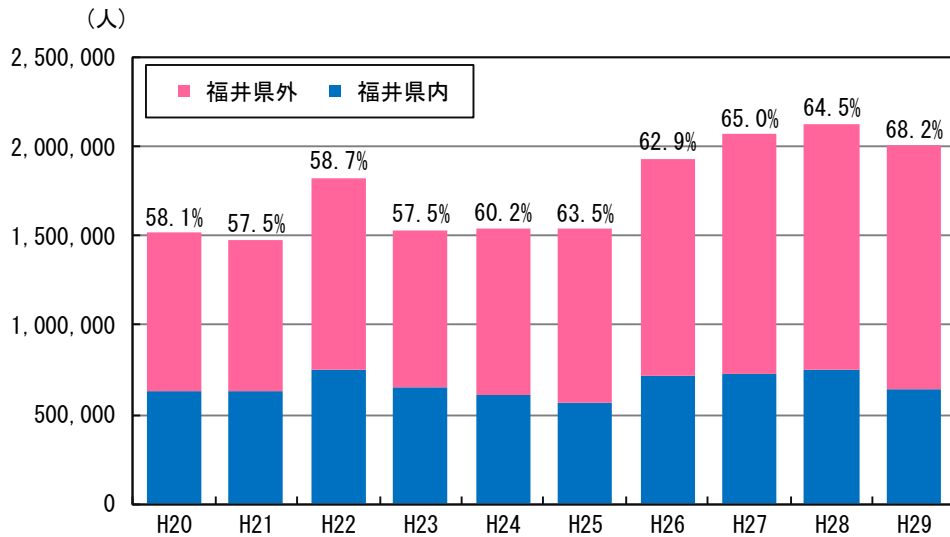


図 7.5-3 大野市の県内外別観光入込み客数の推移

【出典：大野市商工観光課資料】

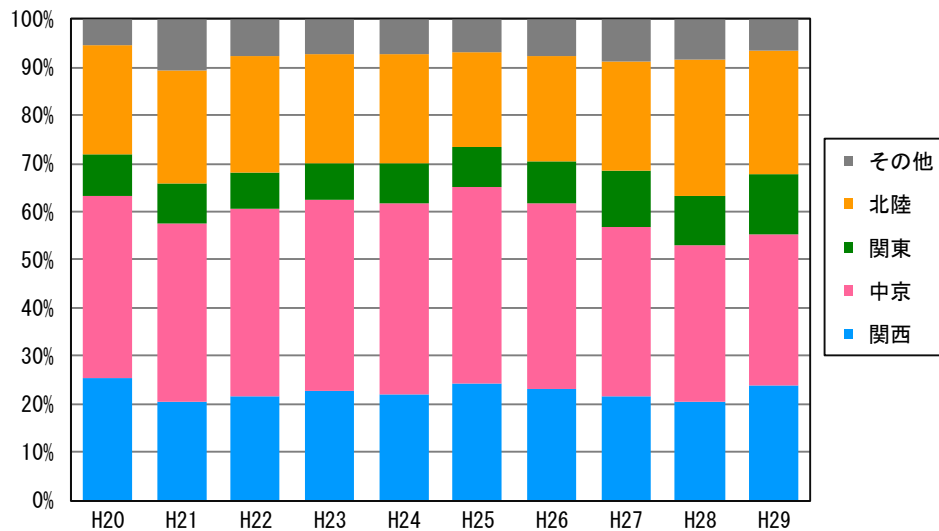


図 7.5-4 大野市の県外観光客の発地内訳の推移

【出典：大野市商工観光課資料】

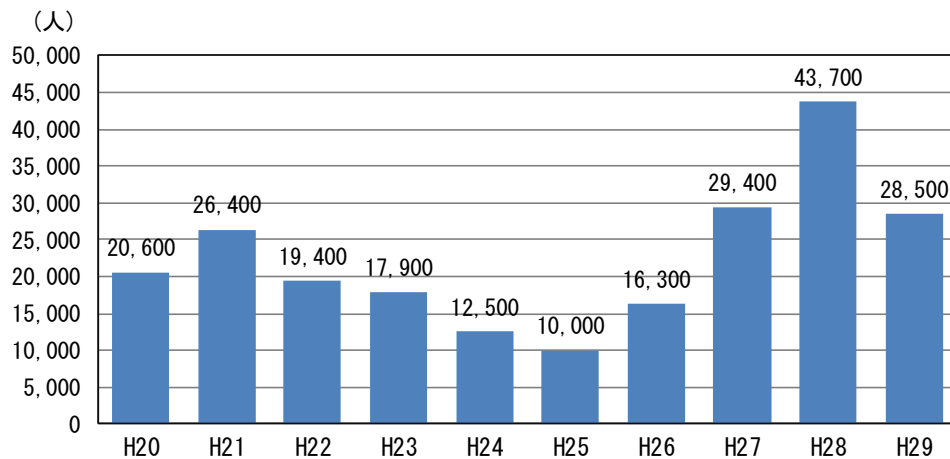


図 7.5-5 真名川ダム周辺の入込み客数の推移

【出典：大野市商工観光課資料】

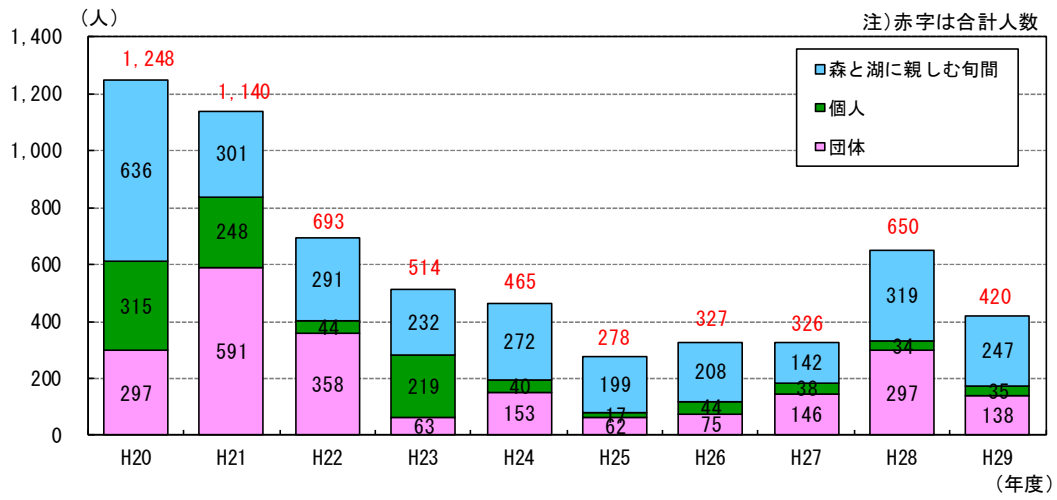


図 7.5-6 真名川ダムの見学者数の推移

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

7.5.4 ダムおよびダム周辺のイベント等の開催状況

(1) 森と湖に親しむ旬間行事

真名川ダムでは、真名川ダム見学会を常時受け付けている。また「森と湖に親しむ旬間行事」の一環としても毎年見学会を開催している。

この他、NPO が主催する「ドンダリの苗づくりイベント」、ダム管理者が行っている「ダム周辺の紅葉情報の HP での提供」など、多くの観光客が集まるイベントや情報提供が行われている。



図 7.5-7 森と湖に親しむ旬間行事(真名川ダム見学会)開催の新聞広告



図 7.5-8 森と湖に親しむ旬間行事(真名川ダム見学)の様子



図 7.5-9 森と湖に親しむ旬間行事(森のマスクット作り・積み木遊び)の様子

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

(2) 日帰り留学

日帰り留学は、福井豪雨から10年の節目となる平成26年より「水源地域ビジョン」の取り組みの一環として実施している。

上下流域の子ども達(親子)に短期留学をしてもらい、山林・里山・田園地域での自然体験等を通して上下流域間の交流と連携の強化、防災意識の向上を目的とした行事である。

ネイチャーゲームでゲーム感覚で自然とふれあったり、川の健康診断で水の大切さ等を学んだり、「ミズ水クイズ」で災害のことやダムの必要性を学んでもらった。



《ネイチャーゲーム》
自然の中に隠れた色々なものを五感で感じ自然と触れ合った。



《川の健康診断》
川の生物を採取して、川の水がきれいかを調べた。



《ミズ水クイズ》
パネルをヒントにクイズ形式で、災害、防災・ダムの役割などについて学んだ。



■日帰り留学の案内チラシ

(3) インフラツアー

福井県の魅力を再発見するきっかけ作りを目的に、平成30(2018)年4月からJR西日本と地元企業が企画し、名水の町として知られる大野の水資源、真名川ダムを五感で体感できるユニークなツアーが企画された。

初年度は、応募者が少なく開催に至らなかったため、他の主体との更なる連携が考えられるほか、中部縦貫自動車道整備による集客が望まれる。



～諸元～
ダム名：真名川ダム
現在地：福井県大野市下若生子
河川名：九頭竜川水系真名川
形式：不等厚アーチ式コンクリートダム
堤高：127.5m
堤頂長：357.0m
集水面積：223.7km²
総貯水容量：115,000km³

見所ポイント①!
大噴水
水位によって変わる大噴水を間近で見ることができます。

見所ポイント②!
キャットウォーク(放水ゲート間)
水面より約60m(ビル20階相当)から眺める景色は圧倒的です。

見所ポイント③!
ダム内部
滅多に入れないダム内部を徒歩で見学できます。

図 7.5-10 インフラツアー(真名川ダム見学)のイメージ

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

7.6 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

ダム湖利用実態調査は、「河川水辺の国勢調査：国土交通省河川局河川環境課」により、平成3年度から3年毎に実施しており、四季を通じた休日5日、平日2日の合計7日の現地調査（ブロック区分調査、利用者カウント調査、利用者アンケート調査、イベント調査、施設利用者数調査）を実施し、年間利用者の推定を行うものである。

平成26年度の結果によれば、年間の利用者数は約2万1千人であった。

利用形態別状況の年間推計値によると、「野外活動」がほぼ大部分を占めており、ダム上流部にある麻那姫湖青少年旅行村の公園（キャンプ場）施設利用が多く、過去の調査結果からみてもアウトドア的な利用が大半を占めている。

なお、平成3年度の調査の来場目的の設問は、「スポーツ」、「釣り」、「ボート」、「散策」および「その他」であったが、平成6年度の調査からは、設問に「野外活動」と「施設利用」を追加している。

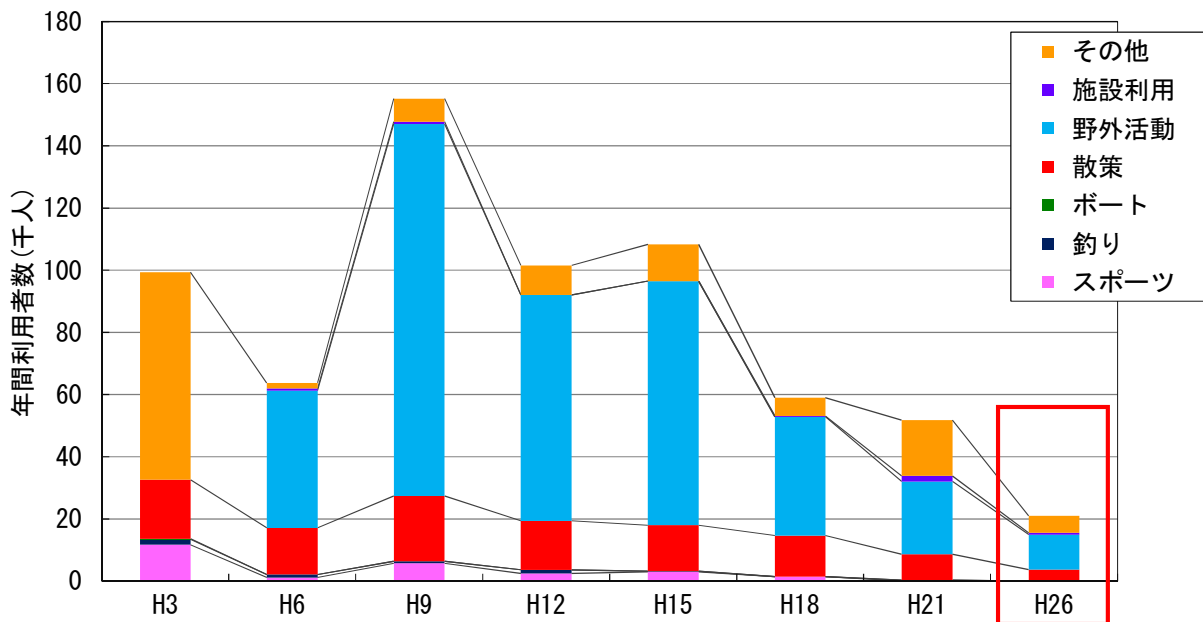


図 7.6-1 真名川ダム湖利用実態調査結果

【出典：河川水辺の国勢調査結果（ダム湖利用実態調査編）平成3年度～平成26年度】

表 7.6-1 真名川ダム湖年間利用状況

(単位：千人)

	平成3年度	平成6年度	平成9年度	平成12年度	平成15年度	平成18年度	平成21年度	平成26年度
ダム	6.7 (6.7%)	1.9 (3.0%)	10.3 (6.6%)	15.9 (15.7%)	14.1 (13.0%)	13.3 (22.5%)	0.4 (0.8%)	6.2 (29.7%)
湖面	2.3 (2.3%)	2.7 (4.2%)	8.1 (5.2%)	1.1 (1.1%)	5.5 (5.1%)	0.9 (1.5%)	3.0 (5.8%)	0.0 (0.0%)
湖畔	90.4 (90.9%)	59.1 (92.8%)	136.9 (88.2%)	84.5 (83.3%)	88.7 (81.9%)	45.0 (76.0%)	48.4 (93.4%)	14.7 (70.3%)
合計	99.4	63.7	155.2	101.5	108.3	59.1	51.7	20.9

【出典：河川水辺の国勢調査結果（ダム湖利用実態調査編）平成3年度～平成26年度】

7.7 まとめ

まとめ【評価】

- 「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会」（平成18年2月設立）に関連した様々な取り組みについて、関係機関・団体等と連携した施策が実施されており、水源地域等の活性化に寄与している。
- 真名川ダムの見学者数は平成25年度までは減少傾向であったが、平成26年度以降は増加傾向にある。「森と湖に親しむ旬間」には毎年、多数の参加者がある。また、「日帰り留学」などの自然環境に関連する取組みなどが継続して実施されている。

今後の方針【改善措置】

- 水源地域ビジョン推進委員会を通じて、地元自治体や関係機関・団体等と連携した取り組みを継続するとともに、関係機関間の情報共有と連携(横のつながり)の強化、各種取り組みの広報等を行っていき、地域との関わりを広げていく。

7.8 文献リスト

「7. 水源地域動態」で使用した文献等を以下に示す。

表 7.8-1 「7. 水源地域動態」で使用した文献・資料リスト

No.	報告書またはデータ名	発行者	発行年月日	箇所
7-1	大野市勢要覧 ver. 2014	大野市	—	ダムの立地条件
7-2	中部縦貫自動車道のパンフレット	福井河川国道事務所	平成 29 年 10 月	交通アクセス
7-3	ふくい city ナビ	公益財団法人福井観光コンベンションビューロー 福井市おもてなし観光推進室	—	交通アクセス
7-4	国勢調査	総務省統計局	昭和 35 年～平成 27 年	人口・世帯数
7-5	経済センサス	総務省・経済産業省	昭和 44 年～平成 24 年	事業所数
7-6	福井県累年統計表	福井県	昭和 35 年～平成 24 年	就業者数
7-7	真名川ダム水源地域ビジョン	大野市、 九頭竜川ダム 統合管理事務所	平成 16 年 3 月	水源地域ビジョン
7-8	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン	大野市、 九頭竜川ダム 統合管理事務所	平成 18 年 2 月	水源地域ビジョン
7-9	ダム管理フォローアップ年次報告書作成他業務	九頭竜川ダム 統合管理事務所	平成 25～29 年度	地域との交流活動
7-10	河川水辺の国勢調査結果(ダム湖利用実態調査)	九頭竜川ダム 統合管理事務所	平成 3 年度 ～平成 26 年度	ダム湖利用実態調査